

# 平成27年度(第4期)事業報告

自平成27年4月1日

至平成28年3月31日

平成28年6月18日

一般社団法人輝水会

## 1. 平成27年度事業概況

当法人は、平成28年3月31日に第4期事業年度を終えました。

定款の目的に、「社会福祉分野での知識を普及させ、公益の増進に寄与する」(様々な分野から構成される包括的なリハビリテーション・サービス)と定めており、医学的リハビリテーションの「補完的役割」を担う役割として社会的リハビリテーションの分野を非営利で行っています。

平成26年度から、国立障害者リハビリテーションセンター研究室運動機能系障害部所属の河島則天(かわしま のりたか)氏に顧問として研究協力を得て、神経難病を患う患者の水中リラクゼーションにおける効果検証を明らかにする取り組みを行って来ました。健康運動指導士などの資格を持つ指導者らが研究者の指針を仰ぎ、医療の補完的役割を持つ社会的リハビリテーションの選択肢の幅を広げ、充実させていくことを目的としています。

当法人の使命は、退院後在宅において今後に希望を見いだせない患者に、生活の質の向上とともに自信や希望を持ってもらうよう、寄り添い励ましを行いながら一人ひとりの可能性を引き出すことです。

## 2. 重要な報告事項

### ① 平成27年度寄附金について

平成27年社員3名より、65万1千円、賛助会員法人より15万円の寄附金がありました。

平成27年度の主な寄附金の使途は、

1. 神経難病疾患を患う患者への水中リハビリに対する研究者からのアドバイス費用の一部
2. 水中リハ効果検証に伴う経費(交通費・指導者帯同費用)の一部

国立障害者リハビリテーションセンター(所沢市)・ふれあいスポーツセンター(伊勢崎市)・  
わくわく健康プラザ(上尾市)等

3. 木畑理事の研究活動費の一部
4. 公認会計士からのアドバイス費用の一部

### 3. 主な活動状況

#### 1. 神経難病疾患並びに脳損傷者への水中アビリティエクササイズ取組事業

(定款第4条1号:障がい者、高齢者に対する水中トレーニングを軸とした、包括的な健康回復・健康増進事業)

平成26年度より行ってきた、河島氏(研究者)、三原記念病院神経難病担当主任PTとの関係により、脊椎小脳変性症を患う患者への水中アビリティエクササイズ(おもに水中リラクゼーション)の効果を明らかにする取り組みは、患者のレスパイト入院前に水中リラクゼーションを1週間から10日の間隔を空け3回行い、3クールが終了しました。短期リハ入院前に入院時に取り組むべき目標設定を定め、より効果的なものにするを目的とし、神経難病疾患そのものの改善というより、通常のリハビリテーションの増悪となる上肢・下肢の過緊張状態を水中リラクゼーションにより出来る限り取り除くというものです。水中リラクゼーション、座位・立位姿勢の調整や歩行時重心バランスを繰り返し行う事で、患者の緊張が回を重ねる毎に軽減し、そのリラックス体験が感覚として維持され、バランスのとれた立位や歩行に導く効果がみられました。また、水中での画像撮影やHPモニターによる計測を行い、来期も引き続き数名の患者における同様の取り組みを計画し、その効果をより明確なものにしたいと考えています。今期明らかになった結果を来期河島顧問より学術発表いたします。(別途、河島則天顧問より詳細の報告)

この様な取り組みにより、水中リラクゼーションの効果が明らかになれば、今後神経難病を患っている患者に医療の補完的役割のリハビリの選択肢を広げ、希望や自信を持つことにつながりその事がさらなる生活の質の向上にも繋げることができると考えます。

##### (1) 水中アビリティエクササイズの実施

- ① 国立障害者リハビリテーションセンター河島則天氏の指針を仰ぎ、関係のもと、行った水中アビリティエクササイズの取り組みの回数。
- ・42歳男性 脊椎小脳変性症(美原記念病院短期リハ入院前及び月に一回計8回実施)
  - ・78歳男性 脳内出血発症4年パーキンソン症候群 (13回実施)
  - ・83歳女性 脊椎小脳変性症(4回実施)

- ・34歳男性 脊椎小脳変性症(美原記念病院短期リハ入院前に4回実施)
- ・59歳男性 脳内出血発症9年 右半身麻痺 (35回実施、その間定期的に三軒茶屋リハビリテーションクリニックPTによるリハビリ内容のアドバイスを受け記録を残し、その内容生かした形で水中でのアビリティエクササイズを実施し、またボトックス治療中における上肢水中リハビリの検証と構築を行う)

## (2) 研究及び学術的評価・発表

今年度、水中アビリティエクササイズ・リラクゼーション時の効果検証として、心拍数計を用いたデータ計測を実施しました。実施対象者数は、12名(内訳:脳血管障害:8名、神経難病:2名、パーキンソン症候群:1名、頸髄損傷:1名)、実施回数合計は40回です。

世田谷総合福祉センター水治療室を貸切利用し、通常の水の中リハビリ実施時に脳血管障害患者の心拍数データの複数蓄積並びに画像撮影を行うことができました。

また、神経難病患者のデータに関してはリラクゼーション時の映像と合わせ、水中リラクゼーション時の「リラクゼーション」効果を心拍数という客観的データの蓄積があります。2015年12月には、これらのデータをもって顧問河島氏に横浜ラポール・横浜市総合リハビリセンター側へ、神経難病患者水中リラクゼーションの効果を提示いただきました。次年度行う、横浜ラポールにおける神経難病患者に対する水中リラクゼーション事業においても、引き続きデータ計測を行なっていく予定です。

## (3) 普及活動

### ① 水中アビリティエクササイズ体験会の実施

- ・福祉関係者対象とした水中アビリティエクササイズ体験会

平成27年5月6日松戸市高次脳機能障害デイサービス夢子の藤井氏・社会福祉士の山中氏が、世田谷区総合福祉センター水治療室での三嶋理事の水中アビリティエクササイズの様子を視察し、水中リラクゼーション・水泳の体験を行いました。7月8日に千葉県松戸市内の和名ヶ谷スポーツセンタープールにおいて、藤井氏のデイサービス利用者2名の水中アビリティエクササイズ導入のための体験会を行いました。

- ・国立障害者リハビリテーションセンター内プールにおける「第3回水中リハビリ体験会」

平成25年より開始した脳卒中患者を対象とした「水中リハビリ体験会」を平成27年9月12日、開催しました。参加者12名、水中歩行・水中リラクゼーション・希望者には泳ぎの体験や指導を実施、歩行映像記録やHRモニターによる計測を行いました。次年度より6月7月～10月のプール解放期間に毎月1回の開催を予定しています。

- ・医療従事者及び福祉関係者を対象とした水中アビリティエクササイズ(水中リラクゼーション)体験会

平成 27 年 9 月 23 日、世田谷区総合福祉センター水治療室において、水中リラクゼーション体験会を行いました。医師・認定看護師・PT.OT など16名の参加があり、神経難病疾患患者水中リラクゼーションの意義（河島氏）、リハビリテーション・スポーツの概念（宮地氏）について講演いただきました。

・患者・家族を対象とした水中アビリティエクササイズ体験会

11 月 11 日目黒区高次脳機能障害家族より、2 組の高次脳機能障害当事者の水中リラクゼーション及びアビリティエクササイズの体験会を、世田谷区総合福祉センタープールで行いました。そのうち一組の家族はその後も水中アビリティエクササイズを月に 1 回～2 回継続しています。

## 2. 「Kakko さんの左手料理等」事業

水中アビリティエクササイズにより QOL の向上を遂げた右片麻痺患者自らが同じ障害を持つ女性のロールモデルになる事の希望があり、工夫を重ねた左手のみの料理方法を映像化し、当法人 HP 上のブログで一部を配信するとともに、DVD を作成しました。HP 上において 1 部 1500 円で販売を開始、24 枚の売り上げがありました。当法人会員の女性の参加のもとプレ講習会を行いました。その後 Kakko さんがやけどなど、長期活動できない状況になり、一時活動を中断しましたが、作成した DVD は当事者の水中リハ体験会、及び、学会など可能な場でロールモデルとして紹介を行っていきます。

## 3. 広報に関する事項

前年度 HP をリニューアル公開し、Facebook,および Twitter と連動させることで HP への閲覧が増加しました。水中アビリティエクササイズの動画をまとめ、内容など開示公開し、水中リハビリや・水中リラクゼーションへの理解を深めました。

## 3. 会員等異動

### (1) 正会員及び賛助会員異動

	H27.4.1 現在	入会	退会	H28.3. 31現在
個人正会員	19	6	0	25
団体会員	0	0	0	0
賛助会員	1	3	0	4

## (2) 役員異動

	H27.4. 1 現在	退任	新任	H28.3. 31 現在
理事長	1	0	0	1
専務理事	0	0	0	0
常務理事	1	0	0	1
理事	1	0	0	1
監事	1	0	0	1
役員合計	4	0	0	4

## 4. 会議等開催状況

### (1) 社員総会

#### 第3回定時社員総会

- ・日時 平成27年6月27日
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿主たる事業所

社員の総数	20名
総社員の議決権数	20個
議決権を行使できる社員の数	20名
議決権を行使することができる社員の議決権数	20個
出席社員数(委任状による出席を含む)	14名
出席社員の議決権数	14個
出席理事	手塚 由美(議長兼議事録作成者)、三嶋 完治、木畑 実麻
出席監事	阿部 英雄

定刻、代表理事手塚由美から本日の定時社員総会は、定款第12条の規定する定足数に達している旨の報告があった。次いで、定款第14条の規定により、代表理事手塚由美が議長席につき、本会は適法に成立したので開会すること、定款第17条2号の規定により議事録署名人として、三嶋完治と木畑実麻を指名する旨を宣言し、直ちに議事に入った。

#### 報告事項

第3期(平成26年4月1日～平成27年3月31日)事業報告及び計算書類報告の件

議長は、まず阿部監事に監査報告を求めたところ、阿部監事より事業報告及び決算報告について監査報告書記載のとおり、特段あらためて指摘すべき事項はない旨報告があった。

続いて、議長より当期における事業状況を事業報告及び附属書類により詳細説明報告し、下記の書類を提出して、その承認を求めたところ、満場一致で承認した。

1. 貸借対照表
2. 損益計算書
3. 販売費及び一般管理費明細書
4. 株主資本等変動計算書
5. 勘定科目内訳明細書

## (2)理事会

### 通常理事会(平成27年度第1回)

- ・日時 平成27年4月23日
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・主な内容 旅費規程承認の件、寄附金取扱規程承認の件、第3回定時社員総会招集の件、その他
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部

### 通常理事会(平成27年度第2回)

- ・日時 平成27年6月27日(木) 午後14時10分～
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部
- ・主な内容 木畑理事の研究活動報告の件、Kakkoさん左手料理活動報告の件、その他

### 通常理事会(平成27年度第3回)

- ・日程 平成27年9月24日
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部
- ・主な内容 当法人所有車両の名義変更の件、日本アダプテッド体育・スポーツ学会(JASAPE)の件、その他

#### 通常理事会(平成27年度第4回)

- ・日時 平成27年11月17日
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・主な内容 益子芙美氏の健康運動指導士資格取得に伴う講習費補助の件、来年度事業計画の件
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部

#### 通常理事会(平成27年度第5回)

- ・日時 平成28年1月18日
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・主な内容 (一社)日本脳損傷者ケアリング・コミュニケーション学会東京大会後援の件、来年度事業計画に向けて、その他
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部

#### 通常理事会(平成27年度第6回)

- ・日程 平成28年3月26日(金)
- ・場所 東京都新宿区新宿6-28-10-902シルバーマンション新宿  
主たる事業所
- ・主な内容 平成28年度事業計画及び収支予算書承認の件、理事3名任期満了につき候補者選任及び新理事選任の件、河島則天氏の顧問料承認の件、その他
- ・出席理事 手塚、三嶋、木畑
- ・出席監事 阿部
- ・オブザーバー参加 小川

### 3. 社員等異動(平成27年3月31日現在)

0名

### 4. 役員名簿(平成27年3月31日現在)

理事長(代表理事)	手塚由美
常任理事	三嶋完治
理事	木畑実麻
監事	阿部英雄



## 5. 平成28年度事業の展望と課題

平成28年度事業は、以下のとおり具体的に推進していきます。平成26年より取り組んできた国立リハビリテーションセンターの運動機能系障害研究部の研究者の河島則天氏との連携による、神経難病を患う患者への水中リラクゼーションの効果検証を明らかにし、河島氏による学術的発表を行います。引き続き来期中に、数名の患者の水中リラクゼーション、及び座位・立位の重心バランスの確認を繰り返し行う事による効果測定を、河島氏と連携して行いその効果をさらに明らかにしていきます。

また、前年度に引き続き、神経難病患者の水中リラクゼーション時の心拍数計測及び脳血管障害・脊髄損傷患者の水中アビリティエクササイズ及び水泳実施時の心拍数計測を行います。2015年に計測を行っているデータに関しての学術的な発表を以下の2項目について実施します。学術的な発表の機会としては、学会発表機会及び専門誌・機関紙への投稿を検討します。

- ① 神経難病患者の心拍数（R-R 間隔の比較）変化・水中リラクゼーション実施のリラクゼーション効果について
- ② 身体障害者（脳血管障害・脊髄損傷等）の水中運動実施時の心拍数変化からみる運動負荷強度について

また、啓蒙活動として、前期に引き続き医師・理学療法士・作業療法士等医療従事者、健康運動指導士等を対象とした水中リハビリ及び水中リラクゼーションの体験会・講習会、及び、患者とその家族を対象とした水中アビリティエクササイズの体験会を定期的で開催し、医療の補完的役を持つ社会的リハビリテーションとして理解を得る取り組みを行っていきます。

今後の課題として、公益認定の視野に立ち、水中でのアビリティエクササイズが「社会全般の利益、不特定多数の利益」に繋がると認められるよう、医師をはじめ、医療従事者の理解を得るとともに、国立障害者リハビリセンターの河島則天氏と関係を強固にしていく事が大切であると考えています。また、現在取り組んでいる研究の結果を持ち、複数の助成金への申請を行い、公的資金を得ながら患者にとってより良い形で水中アビリティエクササイズが受けられるような取り組みにつなげていくことが必要であると考えます。

以上